会山行 No.2404

越後：巻機山黒岩峰

◆日程　　2023 年 3 月 4 日（土）～5 日（日）

◆メンバー　L ： HM、OT

（前略）3 月はフルマラソンの予定もなく、自分の原点である山ヤとして冬山に行きたいと考えており、以下の山行を予定しています。両方ともルートは確定ではなく、参加希望者の力量・希望等を踏まえて検討したいと考えているので、遠慮なくお問い合わせください。

3/4-5　雪稜・縦走　越後/巻機山　黒岩尾根　※清水から黒岩峰を経て割引岳に至る積雪期のルート。巻機山の尾根の中では初中級ぐらいのルートと思われ、天候に恵まれれば、快適な山行になるでしょう。個人的には今季冬初めの癒し系山行になればと考えています。積雪状態を見てスノーシューかワカンのどちらかを選択予定。

3/18-19　雪稜・縦走　越後/巻機山　天狗尾根　または上越国境/大源太山　コブ岩尾根

※ジャンル的にはどちらもアルパインクライミングになります。天狗尾根は割引沢二俣から天狗岩を越えて割引岳に至るルートで、巻機山の尾根の中では中上級のルートと思われます。大源太山は低山ながら上越のマッターホルンの異名を持つ鋭峰で、中でも東面のコブ岩尾根は積雪期の代表的なルートです。両ルートとも 3 月半ばであれば最も登りやすいかと考えています。時期的にはスノーシューよりワカンになる可能性大です。－2 月の配信メールから抜粋

後者はともかく、前者については「癒し系」ルートと考えていたが、OT さんからの参加希望を受け、改めて調べてみたところ、そもそも黒岩尾根自体の記録が極端に少なく、数少ない記録の大半はかなり限定された人たち（昔の仲間や他会の知人）のもの。しかも、それらの記録は黒岩尾根ではなく黒岩峰となっている、つまり黒岩峰までの尾根下半部しかトレースしていないものが多い。1 泊では厳しいのか？確かに黒岩峰はたかだか標高 1446m の低山であり、立ち位置的にも巻機山の前衛峰に過ぎないので人気がないのも当然だろうが、ここから稜線上の巻機山や割引岳まで快適なラインが引けるのであれば、もっと記録があってもよいはず。そうでないということは、それなりの理由があるということか…そういう視点で地形図を見ると、黒岩尾根は、巻機山から金城山に至る稜線の西面の尾根の中では比較的長い部類に入り、黒岩峰までの下半部は両側が切れ落ちコンターラインが詰まった部分が続く「核心部」。一転して上半部は素直そうな尾根が稜線の割引岳までのびている。これは「癒し系」どころか、ひょっとしたら「ビョーキ系」ルートではないか？まあ、メンバーが OT さんなら何とかなるだろう…と、3 月例会では「黒岩峰への登下降になる可能性が高い」とさりげなく下方修正した上で、計画書では当初予定通り「黒岩尾根～黒岩峰～割引岳～高仙尾根下降」とし、エスケープルートして往路下降と下降路変更について記載、あとは現地判断で柔軟に対応しよう。

3 月 4 日（土）　天候：曇／雪／晴

当日早朝発が完全に裏目に出た。圏央道から渋滞につかまり、関越道に入ってからも断続的に渋滞…どハマりだ。運転しながら 1 日半行程で八海山の南面の尾根か、日曜日帰り装備にして大源太山コブ岩尾根への転進も検討したが、10 時頃に着いたので、ギリ許容範囲か…ただし、この時点で当初計画のルートは無理なので、黒岩峰への登下降がほぼ決定。駐車場所に悩んだが、集落の外れに都合の良いスペースを見つけて駐車し、国道脇から黒岩尾根末端に取り付く。足回りは信頼の MSR アッセント。スノーシュー歴 20 年目（ぐらいか？）にしてようやく手に入れた MSR のフラッグシップモデルだ。重い湿雪ラッセルなので、スノーシューでよかった…ワカンだと泣けてしまうところだ。次第に尾根が細くなり、南側に雪庇が張り出す部分が増えてきた。アイゼンに替えて北側の藪混じりの斜面からリッジ

上へ這い上がる、そんな苦行のような動きを何度も繰り返しながら我慢の登高が続く。「癒し系」って…

初日　黒岩尾根下半部の登高

やがて986m 標高点のピークに出たところで一息つけるかと期待したが、甘くない。その先がギャップ気味に切れ落ち、南側は雪庇だろう…リッジの進行方向は雪崩そうな軟雪の急斜面で、恐くて下が見えない。これは核心部だ…少し迷ったが、ここはロープを出すべきところ。立ち木にアンカーを取って、リードする。ロープの安心感！文字通り命綱という感じ。クライムダウンの場合はトップよりフォローの方が墜落距離が大きくなるので、多めにプロテクションを取って進み、50m ロープ一杯でピッチを切る。この先は傾斜が緩むのでスピード重視でロープを一旦仕舞い、幕場適地を探しながら行動を続けると、奇跡の「最高テン場」が現れた！半ば小躍りする気分で整地を行い、テントを設営。夕食は鮭クリームスープ、ヤンニョムチキン、もつ煮込み、アスパラリゾットのスーパー有り合せフルコース。

CT:蟹沢新田 10:40 - 黒岩尾根 740mJCT12:40/13:00 - 986m 標高点 15:40/16:05 - 980m 地点 17:30（テント泊）

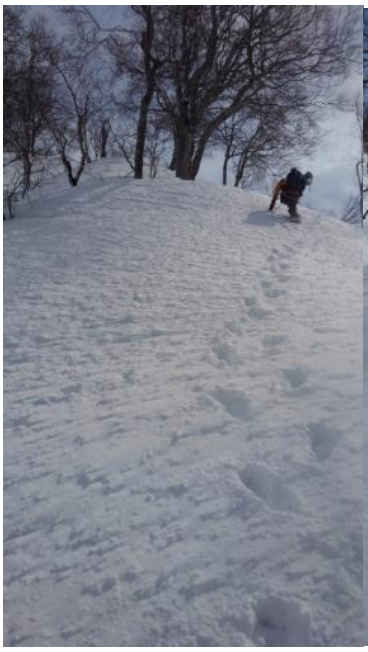
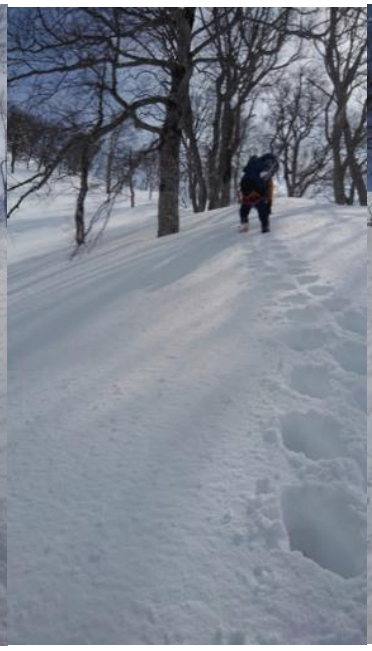
3 月 5 日(日)　天候：晴

6 時出発予定だったが、1 時間遅れで出発。地形図では標高 1200m 地点までが核心部、水平距離にして 1 km余り…ここを 2 時間で抜けられれば 10 時には黒岩峰、16 時～17 時頃には下山と計算。ナイフリッジの雪庇帯がウネウネ続く厳しいセクションだが、いつもながらカモシカ君の巧みなトレースには感心させられる。ただ、注意すべきは我彼の体重差、2 本足と4 本足の違いによる過重の分散、危険予知能力の差など、その違いは大きい…雪庇帯の通過は特に要注意。結局この核心部の通過に 4 時間余りを費やすことになったが、予想通り標高 1200m付近から緩やかな雪稜になり、200～300m離れた尾根北面の斜面にカモシカの姿が認められた。「ありがとう！カモシカセンパイ」2021 年箱根駅伝 1 区の「#サンキュー塩澤」）を思い出し、感謝と敬意の念を込めて 2 回コールした。こちらの声が届いたようで、我々に一瞥をくれたが、（変な人間がいるな…）とでも言いたげな素振りでゆっくり歩き始めた。心を込めてコールしたので、気持ちの半分ぐらいは届いただろう。

2 日目　朝日を浴びる黒岩尾根下半部の水平リッジ帯

我々冬山登山者は高機能なウェアや各種ギア、快適な生活道具等の装備を揃え、雪崩学を学び、各種訓練や講習を経て雪山に入っているが、動物たちは身一つでこの世界で生きている。雪山登山や沢登りのプリミティブな魅力に憑りつかれ、山で動物たちのように自由に動けるようになりたい、長年の封印を解いて始めたトレランでも山を駆け回ることに動物としての悦びを感じる。そんな思いで登山を続けているが、彼らが持つ能力に少しでも近づけただろうか…

1250m 付近から黒岩峰直下まで美しいブナ林の雪尾根は続き、このご褒美タイムともいえるファイナルセクションで OT さんが猛烈な頑張りを見せる。1 時間半もトップでラッセルを続け、そのまま黒岩峰の頂に飛び出した。広い雪原状の頂は 360 度の大展望。巻機山の主峰、越後三山はさすがに立派だが、上越のマッターホルンこと大源太山の切り立った東面に目を奪われる。と、ここで OT さんがガチ脚攣り。猛烈な頑張りの代償か？「…ぽどり…すぽどり…」と呻き声が、ああ、スポドリね？ようやく理解できたところで、私のボトル（中身はクラシエのスカイウォーター）を手渡す。これで回復してくれればよいが…

黒岩峰へのファイナルセクション　美しいブナ林の雪尾根と最後の急登

黒岩峰の頂　ガチ脚攣りから回復した OT さん

黒岩峰南尾根　頂上直下の下降

黒岩峰南尾根分岐の舟窪地形と雪原

黒岩峰南尾根末端　割引沢の渡渉

稜線の割引岳へは穏やかな雪尾根がのびていて後ろ髪引かれるが、そこは次回のお楽しみということで、今回は下降路として黒岩峰南尾根を選択。井戸尾根の登山口である桜坂経由となるので、最後の国道歩きも含めてかなりの遠回りになるが、最も安全・確実な下降路だ。頂上直下の急なナイフリッジをしばらくバックステップで下ると、概ね穏やかな斜面が続く。1280m ジャンクションピークは舟窪地形と広い雪原となっており、最高級の極上テン場だ。ここは是非再訪したいところ。桜坂登山口からも近く、雪崩講習の講習場所兼テン場としても最高の立地だ。ここから南向きの尾根に入り、いつの日にかの再訪のために、赤布を付けながら下っていく。尾根のほぼ末端まで下ると、最後は割引沢の渡渉。雪が繋がっている場所も探しながらしばらく沢沿いを進むが、早々に諦めて渡りやすそうなポイントを見つけてサクッと渡渉。スノーシューのまま玉石に乗って靴への浸水は免れた。一旦対岸の雪上に乗ってから、沢に戻って水を汲んでしまうのは沢屋の性か…美味しい水のためには多少の辛苦も厭わない。対岸の段丘に登り返すと登山道と合流し、桜坂登山口へ。まずは安全地帯に戻れたことに安堵。ここから多数のトレースを伝って国道に出る。あとは長い国道歩き、温泉、飯。　　（記：HM）

CT：980m 地点 7:00 - 黒岩尾根 1200m 地点 11:00/11:10 - 黒岩峰 12:55/13:30 - 桜坂 17:20/17:30 - 国道 18:00/18:20 - 蟹沢新田 19:05

中央奥の黒いピラミッドが天狗岩